

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	言語聴覚障害学総論			担当講師	加藤 俊彦		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性及び言語聴覚療法の基本概念を習得する。						
到達目標	1. 言語聴覚士の職務内容、対象となる疾患・障害、職業倫理を理解する 2. 言語聴覚障害の評価と診断の意義、基本的態度を理解する 3. 言語聴覚療法の対象領域および検査・評価の流れの原則を理解する 4. 領域ごとの診療の流れを理解する						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	言語聴覚療法とは						
2	言語聴覚士の臨床①						
3	言語聴覚士の臨床②						
4	言語聴覚士の職業倫理						
5	言語聴覚障害の評価①						
6	言語聴覚障害の評価②						
7	言語聴覚障害の分析・診断						
8	終講試験						
評価方法	終講試験100%						
教科書	配布資料						
参考書	言語聴覚障害学概論 第2版（医学書院）						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	言語聴覚療法学評価・診断学Ⅰ			担当講師	稲川良、松本典之、高堀雅子、根本皇太、石井汰樹、岡崎宏		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2単位	時間	30時間	学年	1年次	学期	後期
概要	スクリーニング検査、HDS-R・MMSE、聴力検査他、言語聴覚療法に関わる代表的な検査を実践する。						
到達目標	1. 導入としての問診、説明と同意を実施できる 2. 検査手続きを理解し、実施できる 3. 検査ごとの目的を理解したうえで実施できる 4. 対象児・者の状況に配慮し、実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	スクリーニング検査
2	HDS-R
3	MMSE
4	聴力検査①
5	聴力検査②
6	聴力検査③
7	発声発語器官検査①
8	発声発語器官検査②
9	発声発語器官検査③
10	発声発語器官検査④
11	RCPM
12	Kohs立方体組合せテスト
13	RSST・MWST・FT①
14	RSST・MWST・FT②
15	終講試験

評価方法	終講試験100%
教科書	ST評価ポケット手帳（ヒューマンプレス）
参考書	
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	失語症学概論			担当講師	根本皇太		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	脳の働きと言語機能との関係について理解し、脳病変によって生じる成人のコミュニケーション障害について学ぶ。主として失語症を取り上げ、原因、症状と発生機序について概要を学ぶ。						
到達目標	1. 脳と言語機能との関係について基本概念を説明できる 2. 失語症の定義、原因疾患、責任病巣を説明できる 3. 失語症の症状、発生機序を理解し、評価できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	失語症とは						
2	失語症の原因疾患						
3	失語症の責任病巣						
4	失語症の症状						
5	失語症の古典分類①						
6	失語症の古典分類②						
7	失語症の評価法						
8	終講試験						
評価方法	終講試験100%						
教科書	配布資料						
参考書	図解 やさしくわかる言語聴覚障害（ナツメ社）						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	高次脳機能障害学概論			担当講師	高堀雅子		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	脳の働きと認知機能との関係について理解し、脳病変によって生じる成人の高次脳機能障害について学ぶ。主には注意・記憶といった基盤的認知機能を取り上げ、原因、症状と発生機序について学ぶ。						
到達目標	1. 脳と認知機能との関係について基本概念を説明できる 2. 高次脳機能障害の定義、原因疾患、責任病巣を説明できる 3. 高次脳機能障害の症状、発生機序を理解し、評価できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	神経心理学の基礎
2	高次脳機能障害の種類①
3	高次脳機能障害の種類②
4	高次脳機能障害の種類③
5	高次脳機能障害の評価法①
6	高次脳機能障害の評価法②
7	高次脳機能障害の評価法③
8	終講試験
評価方法	終講試験100%
教科書	配布資料
参考書	図解 やさしくわかる言語聴覚障害（ナツメ社）
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	言語発達障害学概論			担当講師	石井汰樹		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	小児臨床における言語聴覚士のかかわりについて理解し、小児の評価、療育訓練、保護者への支援についての概要を学ぶ。						
到達目標	1. 医療機関における小児臨床の流れについて説明できる。 2. 初回面接時における情報収集の方法を理解し、説明できる。 3. 各種検査の概要について理解し、説明ができる。 4. 各種療育訓練法について理解し、説明ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	小児臨床の流れ ①受診の契機						
2	小児臨床の流れ ②インテーク						
3	小児臨床の流れ ③診察・問診・相談						
4	小児臨床の流れ ④検査・評価						
5	小児臨床の流れ ⑤診断、カンファレンス						
6	小児臨床の流れ ⑥問題の抽出、訓練プログラムの検討・立案						
7	小児臨床の流れ ⑦療育訓練の実施						
8	終講試験						
評価方法	終講試験70%、課題30%により学修成果を判定する。						
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版 医学書院						
参考書	小児リハビリテーションVol.2 gene 2018、ドリルプラス言語発達障害 診断と治療社						
備 考	講義資料と教科書・参考書を読み、予習復習を行うこと。						

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	発声発語障害学概論			担当講師	稲川良		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	発声発語障害学領域における言語聴覚療法について、その対象となる障害を学ぶ。構音障害（Dysarthria・機能性構音障害・器質性構音障害）、音声障害、吃音の障害像が明確となるよう、原因疾患および背景、発声発語器官に関する解剖・生理学との関係性を理解する。さらに、各障害における音声言語病理学的所見から、日常生活上の具体的な問題点を想定していく。						
到達目標	1. 発声発語器官における解剖・生理学的な基本事項を理解する。 2. Dysarthriaの原因疾患、音声言語病理学的所見を理解する。 3. 機能性構音障害の定義、音声言語病理学的所見を理解する。 4. 器質性構音障害の原因疾患、音声言語病理学的所見を理解する。 5. 構音障害と音声障害の類似点と相違点を明確にする。 6. 吃音者におけるライフステージごとの問題点を理解する。 7. 社会生活における発話という行為の役割をイメージすることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	発声発語器官の役割（呼吸・発声機能）						
2	発声発語器官の役割（鼻咽腔閉鎖・口腔構音機能）						
3	Dysarthriaの基礎						
4	機能性構音障害の基礎						
5	器質性構音障害の基礎						
6	音声障害の基礎						
7	吃音の基礎						
8	まとめ						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	資料配布						
参考書	図解 やさしくわかる言語聴覚障害（ナツメ社）						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	摂食嚥下障害学概論			担当講師	松本典之		
分 野	専 門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	摂食・嚥下に必要な体の構造と機能およびそれらの器官を制御している脳のしくみを学び、口から食べることの重要性を理解する。						
到達目標	嚥下のメカニズムを知り、嚥下に関する用語やその定義などを身につける。嚥下障害の検査・診断・ケア等についての基礎的な知識を身につける。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	嚥下障害の基礎
2	口腔領域の診察
3	摂食・嚥下機能に関わる器官の形態と構造
4	摂食・嚥下機能に関わる器官の機能
5	摂食・嚥下の神経制御機構
6	唾液の役割
7	摂食・嚥下機能の正常なメカニズム
8	終講試験

評価方法	終講試験（100％）
教科書	適宜資料配布
参考書	嚥下障害ポケットマニュアル 言語聴覚士ドリルプラス「摂食嚥下障害」
備 考	講義資料を読み、復習を行うこと。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	聴覚障害学概論			担当講師	岡崎宏		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	聴覚障害における評価・診断・治療を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。また、聴覚障害児・者におけるコミュニケーション方法や、社会的問題などについて理解し、S Tとしての役割を考察する。						
到達目標	1. 基礎的な聴覚器の構造と機能を説明できる。 2. 聴覚の認知について、聴覚伝導路と照らし合わせて説明できる。 3. 基本的な耳疾患と特徴について説明できる。 4. ろう文化とコミュニケーション方法について説明できる。 5. 成人難聴の特徴について説明できる。 6. 小児難聴の特徴について説明できる。 7. 聴覚障害教育の問題について説明できる。 8. 視覚聴覚二重障害について説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	耳の役割						
2	伝音系の構造と機能						
3	感音系の構造と機能						
4	聴覚障害の医学的特徴						
7	聴覚障害の諸問題						
8	終講試験						
評価方法	終講試験70%、課題30%により学修成果を判定する						
教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 医学書院						
参考書	病気がみえる 耳鼻咽喉科 ドリルプラス 聴覚障害						
備 考	講義資料と教科書・参考書を読み、予習復習を行うこと 随時課題を出すので、必ず提出すること						

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	見学実習			担当講師	言語聴覚療法学科教員、臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	80 時間	学 年	1 年次	学 期	通 年
概 要	学修内容は、①言語聴覚障害がある人の抱える問題とその背景、②言語聴覚士の役割と業務、③見学する施設の特徴と地域における役割、④職業倫理（守秘義務）などであり、見学を通して言語聴覚障害がある人がもつ問題とそれに対処する言語聴覚士の役割を学ぶ。						
到達目標	1. 言語聴覚障害がある人の抱える問題とその背景を理解する。 2. 言語聴覚士の役割と業務について理解する。 3. 見学する施設の特徴と地域における役割を理解する。 4. 職業倫理（守秘義務など）を理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	80時間で構成される。 実習施設において臨床実習指導者のもと、言語聴覚療法を見学しながら上記の到達目標の達成を目指す。						
評価方法	実技試験100%						
教科書	無し						
参考書							
備 考							